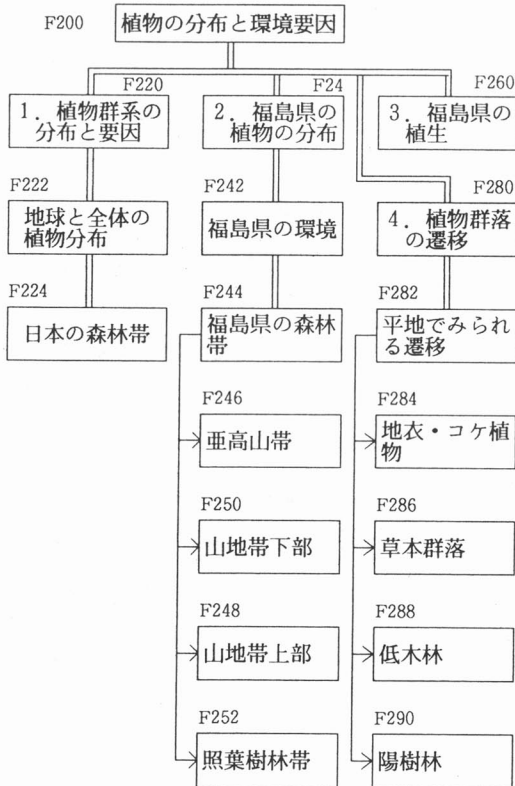


してある。各項目はメニューによって選択できるので、学習者の興味ある分野から見るることができるようになっている。

(3) コースデータ

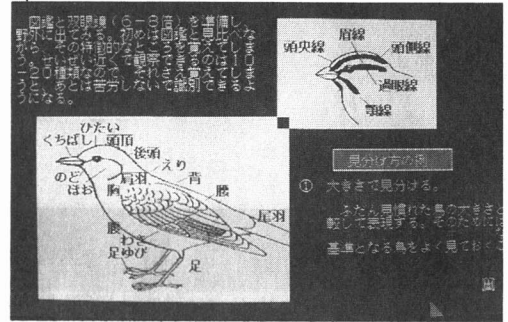
「福島県の自然」のメインのフレームから、4つのサブフレームに分岐している。さらにいくつかの下位のサブフレームへと続くツリー構造になっている。コースデータの一部は、以下に示すように構成した。



[図4]

(4) ソフトの起動について

ドライブAにFCAIのシステムディスク(エグゼキュータ)を、ドライブBにはデータディスクをセットする。後はメニューに従ってコースをマウスで選択するだけでよい。



[図5]

5. 今後の課題

(1) 画像データについて

FCAIは、画像関係のファイルとして現在確認しているところでは、ベタファイルおよびPCK形式のファイルには対応している。多くの画像のデータ形式があるがデータの互換性を考慮しながら、どのような形式の画像データにFCAIは対応しているのか研究していきたい。

(2) 動的な表現について

FCAIは基本的には静止画像が中心のため、連続的な動きを表現することは容易ではない。動的な表現のためのユーティリティも開発されてきているが、BASIC言語等の知識がないと使いこなせないのが現状である。動的な表現を簡単に実現できるような工夫について、検討していかなければならないと考えている。

6. 最後に

今後もFCAIの機能を生かして、教材ソフト作成を推進していきたいと考えている。

参考文献

- \* 1 「FCAIによる学習ソフトの作成法」  
堀口秀嗣著 (文溪堂)
- \* 2 「写真でみる福島県自然」  
福島県教育センター編 (アート印刷)